

別紙 事例発表の概要

遺跡名（所在地）	報告の概要	報告者
事例発表Ⅰ 日焼遺跡（高山市）  写真：県文化財保護センター	平成27・28年度に発掘調査を実施した。縄文時代及び古代を中心とする遺跡で、縄文時代早期の煙道付炉穴、縄文時代中期の竪穴建物、古代の竪穴建物、掘立柱建物、礎石建物などを確認した。古代の礎石建物では、鏡が埋納されており、礎石建物の周辺で螺髪や多口瓶、鉄鉢形土器などが出土し、礎石建物は寺院としての性格をもっていたと考えられる。	県文化財保護センター 調査課 村上 博基
事例発表Ⅱ 鵜沼古市場遺跡C地区 （各務原市）  写真：各務原市教育委員会	木曽川畔に展開する集落遺跡で、縄文時代から近世にまで及ぶ痕跡が確認されている。平成26～28年度に実施した発掘調査では、弥生時代の環濠、古代の建物群、中世の大溝などが確認され、各時代に人々の営みがあったことが分かった。今回は発掘調査成果をもとに、本地域に栄えた集落の特色について紹介する。	各務原市埋蔵文化財調査センター 三浦 薫平
事例発表Ⅲ 国史跡 東氏館跡及び篠脇城跡 （郡上市）  写真：郡上市教育委員会	篠脇城跡は畝状空堀群を有する山城として知られる。令和2～4年度に実施した発掘調査では、池の痕跡や建物の礎石、土塁などの遺構を確認した。山麓の東氏の居館跡である東氏館跡とともに、令和6年度に国史跡に指定された。郡上郡内外の情勢に応じて、山麓の館から山上の館、そして山城への移り変わりを示す貴重な事例として注目される。	郡上市教育委員会 今津 和也